

経営比較分析表（令和6年度決算）

宮城県石巻市 石巻市立牡鹿病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	3	-	ド	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
132,447	3,588	第1種該当	-	その他

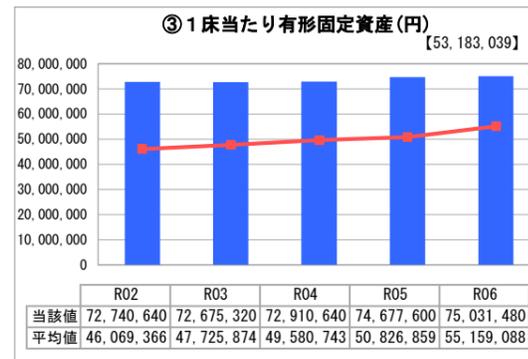
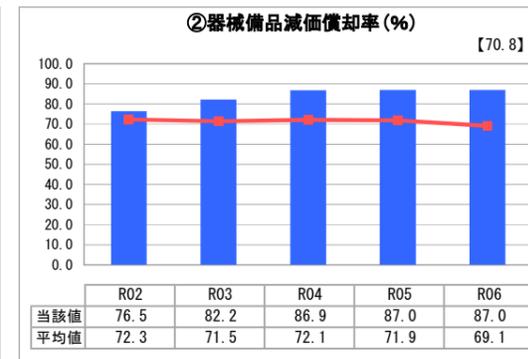
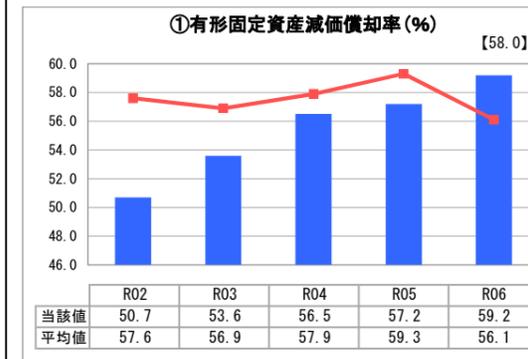
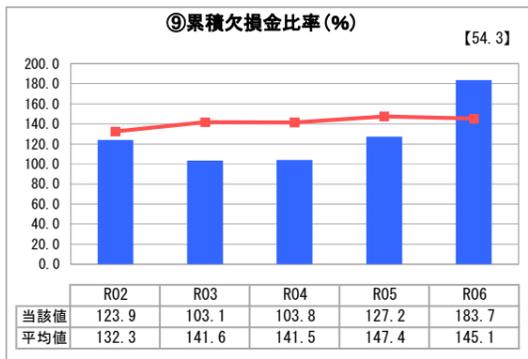
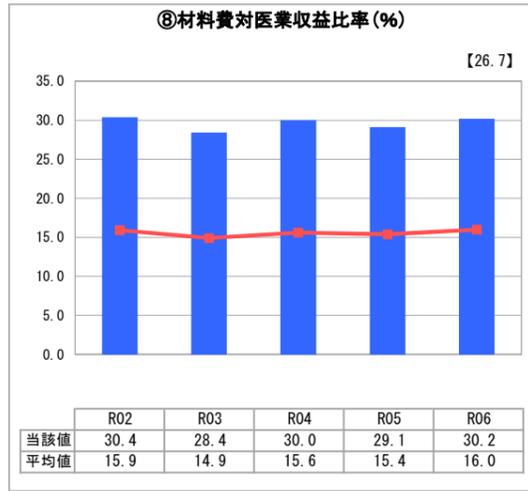
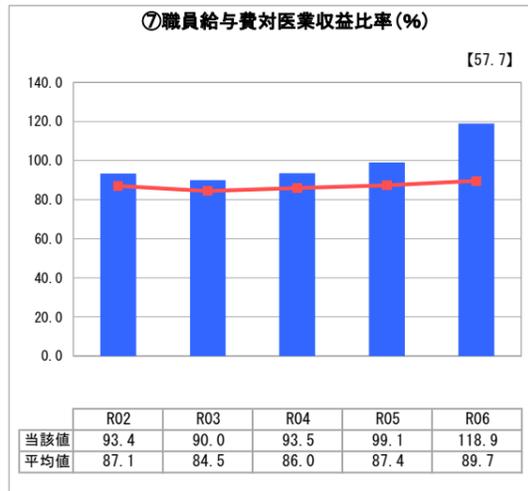
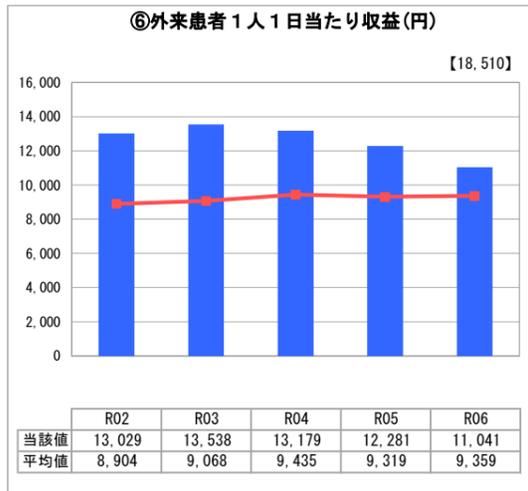
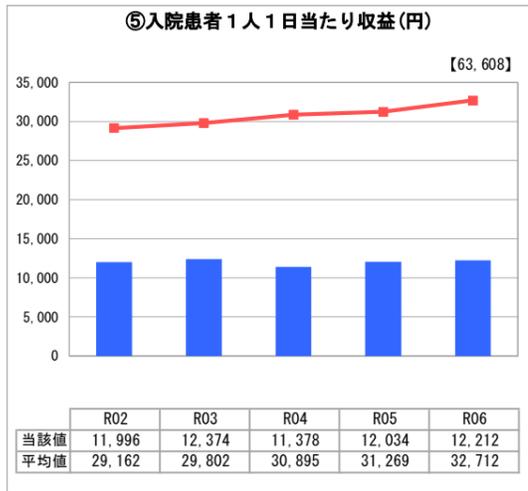
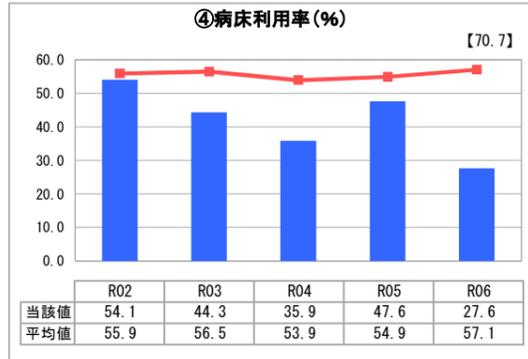
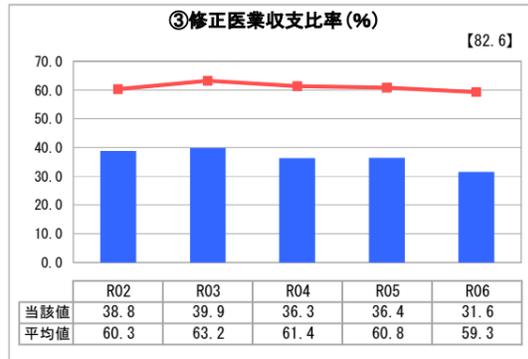
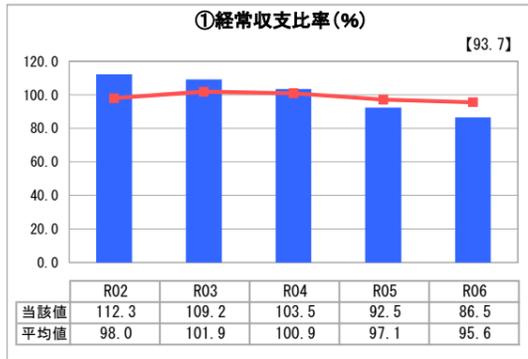
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
25	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	25
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
20	-	20

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
□	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

牡鹿半島において、地域医療を担う唯一の病院として内科、外科及び歯科の3診療科を標榜している。外来及び入院の一般診療のほか、24時間体制で救急患者の受け入れにも対応している。また、一般健康診断業務のほか、各種予防接種事業への協力、校医として小中学校・保育所へ赴き、内科及び歯科の定期健康診断を行うなど、学校保健分野における公衆衛生活動も担っている。その他、各種施設の嘱託医として、疾病の予防や治療にも対応するなど、地域に密着した医療を提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院収益については病床利用率が前年度比で20.0ポイント減となるなど減収し、外来についても地域の人口減少に伴う患者数の減少や慢性疾患を抱える高齢者診療による診療単価の減少などにより外来収益が減収となったため、医業収益は対前年度比で53百万円減となったことなどから、医業収支比率は7.3ポイント減となった。また、設備老朽による修繕費や人件費上昇による委託料等の医業経費増大となった結果、令和6年度決算において経常収支比率が100%未満となるなど、医業活動による医業収益だけでは安定した病院経営は依然として困難であり、一般会計からの繰入れに依存せざるを得ない状況が続いている。加えて累積欠損金比率については対前年度比で56.5ポイント上昇したが、主要な要因として、入院では年度当初の休床等による病床利用率の大幅な減少によるもので、また、外来では、外来患者への多剤併用見直し（ポリファーマシー）及び検査項目の見直しを進めたことによる減収により収支が悪化し、結果累積欠損金の増加となったことから、今後も欠損金額を縮小させるためのさらなる経営努力を続けていかなければならない状況である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産については、建物の竣工から22年目となり、有形固定資産減価償却率は緩やかな増加傾向となっている。今後の施設・設備の改修は、過剰投資を避け計画的に実施するなど、コストの抑制を視野に入れながら実施して行く必要がある。
なお、1床当たり有形固定資産が類似病院平均値よりも5割程度高くなっているのは、平成22年に許可病床数50床から25床へと減床したことによるものである。
器械備品減価償却率については、対前年度比で同率となったが、医療機器等が老朽化傾向にあるため、健診等を含めた利用状況等や今後の運営方針などにより、優先度を明確にした上で、計画的に更新していく必要がある。

全体総括

当院が所在する牡鹿地域は、人口減少が続く過疎地域にあり、現在の人口は1,928人（令和7年12月末現在）と東日本大震災前の4,533人（平成23年2月末）と比較すると、半分以上に減少し、この傾向は今後も進むものと推測される。これに伴い、患者数も同様に減少傾向にあり、安定的な医業収益の確保が課題となっている。
また、医師をはじめとする医療スタッフについても充足しておらず、医療人材の確保が困難な状況となっている。24時間体制で救急患者を受け入れるなど、急性期医療も担う牡鹿地域唯一の病院として、その役割は大きく、地元住民が健康を維持しながら安心して生活ができるよう、市立病院をはじめとする関係医療機関等と連携を図りながら、地域医療提供体制を維持できるよう努めていかなければならない。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。